

# クイズ まちがいさがし

左右の絵を見くらべて、まちがいを8カ所見つけてね。全問正解された方のうち、抽選で10人の方に図書カードもしくはラグーナの湯無料利用券をプレゼントします。

応募締切 3月16日(月)

とうふねこ座：市川雅子 画



企画広報課 ☎66♦1145

## 応募方法

ハガキまたはファクスに①答え(左の絵に○をつける)②住所③氏名(ふりがな)④年齢⑤電話番号⑥広報紙の感想、ご意見などを書いて企画広報課(〒443-8601 FAX 66♦1190)へ。なお、当選者のお名前を広報がまごおり5月号に掲載しますので、ご了承ください。



## ねじゃかさん⑩

文：西島 諒

お釈迦さまは、助けた子どもたちの父親に頼んで、船で少し沖の方まで運んでもらったんじゃないかと。

「ここなら、この陸からでも見えますね」とつぶやいて、見守る動物たちに微笑んだ。お釈迦さまは目を閉じて念じ、海の水面の上に足を出したんじゃないや。そうすると、沈まずに水の上に立ったんじゃないや。これだけでも度肝を抜いたのに、なんと水の上に仰向けに横になったんじゃないや。

「私はここで一日過します。また明日の朝に迎えに来てくれないでしょうか」

翌日の朝、お釈迦さまの寝ていた場所には、お釈迦さまそっくりな小さな島が出来たんじゃないやと。驚く子どもと父親に、お釈迦さまは言った。「私は旅を続けなければなりません。私は、この優しさで自然に満ちたすばらしい地に、何か出来ないかと考えました。夏は過ごしやすく、冬は凍えぬように。雨は適度に降り、火は起きず海山も荒れず。そして、大好きな父を待つ子どもが溺れないように。そう願いながら、この島を想いました。私が次の海に旅立っても、この島はここであなた方と、この地を見守り続けます。優しい海の床に、空の布団をかぶり、太陽と月を枕にして……」

そうしてお釈迦さまが旅立ったあとも、お釈迦さまの島は、この地を守り続けてくれとるんじゃないや。そして、いつからか「ねじゃかさん」と呼ばれるようになったんじゃないや……

「なあ坊、だからおそこに、お釈迦さまはわしらを見守りながら、空を見上げて眠っていらっしやるんじゃないや」

「……おつむ」  
「なんじゃ、坊」  
「明日もここに連れてきてくれるの？」  
「ほっほ、いいとも。さあ、寒くならないうちに帰るぞい。おつかあがまんまを用意してやるから」

お釈迦さまは、今も私たちを見守りながら、海の上で眠っています。ねじゃかさん、と呼びかけてみたら、微笑んでくれるかもしれません……

おわり

## ◆12月号の答え



### 【お詫び】

先月号「12月の答え」で1月号の答えを掲載してしまいました。お詫びして訂正いたします。

1月号クイズまちがいさがし(ねじゃかさん⑩)の当選者 応募総数 72通 正解者 66人

元町 小嶋珠子	水竹町 小林佐乃	金平町 近藤孝子	大塚町 杉浦光恵
形原町 鈴木ちづる	府相町 鈴木敏子	三谷町 松下 鈴	海陽町 松田茂則
栄町 矢部小牧	西迫町 吉見 隆		

(敬称略・50音順)

おめでとうございます。賞品は3月初旬に発送します。